

第47回子ども郷土研究の入賞作品を紹介します

子ども郷土研究は、調査・研究を通して郷土の歴史や文化について関心を持ち、郷土「つちうら」への理解を深めることを目的に実施しています。その中で最優秀賞に選ばれた「新聞の部」の作品2点を紹介します。

☎上高津貝塚ふるさと歴史の広場(☎826-7111)

新聞の部
最優秀賞

わたしのすきな町
～中貫の歴史をめぐって～

都和小 6年 石川 楓

わたしのすきな町 ～中貫の歴史をめぐって～

2024年8月 発行
土浦市立都和小学校
第6学年
石川 楓

土浦市中貫の歴史をさぐってみよう！
大名の休憩場
～中貫宿本陣～

参勤交代で水戸街道を結ぶ身分の高い大名が休憩する場所でした。
土浦市指定有形文化財に指定されています。




鹿島八坂神社
中貫の鹿島八坂神社は明治初年に合併しました。
中貫のひっそりした場所にあり、昔を
見守ってくれています。



安福寺について
真言宗豊山派の寺院です。
土浦には59カ寺の
寺院があります。
安福寺は静かに草木が美しいお寺です。



明神池にまつわる昔話について
昔、神立と中貫にはそれぞれオスとメスのカワウソが住んでいて、二匹は非常に仲が良かったと言われていました。しかし、二匹は別々の土地を守っていたため、一緒に住むことはできませんでした。ある年、大雨が降り続き、二つの土地が道のように繋がったとき、二匹は泳いで会いに行くことができました。
しかし、長く続く大雨は農業に影響を及ぼし、里の人々は水を早く流すために水路を掘ったが、その水が他の土地に流れ込むことで争いが生じてしまったのです。そこで、二匹のカワウソは相談し、地中に穴を掘って水を流すことで、両方の土地に水が行き渡るようにしました。この解決策により、二つの里の争いはなくなり、二匹のカワウソは一緒に暮らすことができたとのお話です。土浦のむかし話 第一集/土浦市文化財課編の会・編
カワウソ達は自分達の問題を見つけ、課題を解決するために色々な方法を考え、見事に成功した話。



明神池について
昔からつり場として有名です。昔話で「神立のカワウソ」と「中貫のカワウソ」というお話があり、この守り神のカワウソたちによりこの満ち水が守られているそうです。



見守ってくれている大きな木
私の家の近くに大きな1本の木があります。昔の人が目印に使ったり、この木の下で休んだりしたり、大切にされている木です。
枝を切ろうとすると災い起こると言われ、誰も枝を切った事が無いそうです。
この木には神様が住んでいて中貫を守ってくれている気がします。



都和小学校の校章
明治6年開校
常名、今泉、小山崎、中貫の4村が合併し、都和村となり、「都和第一尋常小学校」となりました。
四つ葉の形をした校章には、児童達の成長と未来への希望を表しています。



新聞を作った感想
私の生まれ育った「中貫」は豊かな自然と歴史が融合した、魅力的な場所です。
新聞を作ってみて、まだまだ知らないことがたくさんありました。中でも、明神池にまつわるカワウソの話は、課題を解決するために考えたすてい方法だと思いました。
これからも、たくさんの人を知ってみたい、守ってあげたいと思います。



優秀賞

論文の部	上大津地区の学校と分村騒動	土浦第五中	7年	坂本 柚貴さん 高嶋 有希乃さん 本谷 安佳理さん 横田 悠叶さん
新聞の部	土浦古墳新聞	荒川沖小	5年	長谷川 凜音さん
	土浦を走る常磐線の歴史	神立小	5年	高田 陽生さん
	郷土の古墳とヤマト政権との関わり	土浦第五中	7年	圓城寺 咲希さん
	新発見!!! あなたの知らない土浦のむかし話新聞	土浦第五中	7年	武藤 平汰さん

